

上智大学中世思想研究所企画

認識と存在 —— 近代哲学の根本問題 ——

近代哲学は現代の人間像を根拠づけ、私たちの現実理解の背景をなしています。本講座では 15 世紀から 20 世紀の代表的な思想家の文献（和訳）に基づいて、人間論と存在論を中心に近現代哲学史の全体像を展開し、受講者の哲学的理解の深化を目指します。この主題のなかでは、認識と世界の構造、感覚と思惟、自律と自己超越、個人と共同体性、学問と信仰の関係が浮き彫りになっていきます。思想史や哲学の予備知識は前提としません。

講師：クラウス・リーゼンフーバー（上智大学名誉教授・同中世思想研究所元所長）

専門：中世哲学、西洋思想史

曜日・時間帯：水曜 19:00-20:30（全 12 回）

- 4/13 クザーヌス（15 世紀）—— 対立物の一致なる世界
- 4/20 デカルト（17 世紀）—— 思考する理性と対象としての存在
- 4/27 ロックとヒューム（17 世紀）—— 感覚的経験と科学の成立
- 5/11 パスカル（17 世紀）—— 学問と信仰
- 5/18 スピノザ（17 世紀）—— 汎神論における神への愛
- 5/25 ライプニッツ（18 世紀）—— 一と多による单子論
- 6/01 カント（18 世紀）—— 純粋理性と定言命法
- 6/08 フィヒテ（19 世紀）—— 自己と愛の諸段階
- 6/15 キルケゴール（19 世紀）—— 不安の実存と信仰の跳躍
- 6/22 フッサール（20 世紀）—— 世界の起源たる自我の現象学
- 6/29 ブーバーとマルセル（20 世紀）—— 神秘に向かう「我と汝」
- 7/06 ハイデッガーとレヴィナス（20 世紀）—— 現存在としての人間

テキスト：クラウス・リーゼンフーバー著『西洋古代・中世哲学史』

（平凡社ライブラリー、本体価格 1,400 円、ISBN: 978-4-582-76357-7）

使用原典（和訳）は、授業で配布します。

* 定員に限りがございますので、お早目にお申し込みください。

受講料（税込）：32,400 円 連絡先：上智大学公開学習センター 03-3238-3552

* 当チラシは、企画元・上智大学中世思想研究所が作成したものです。